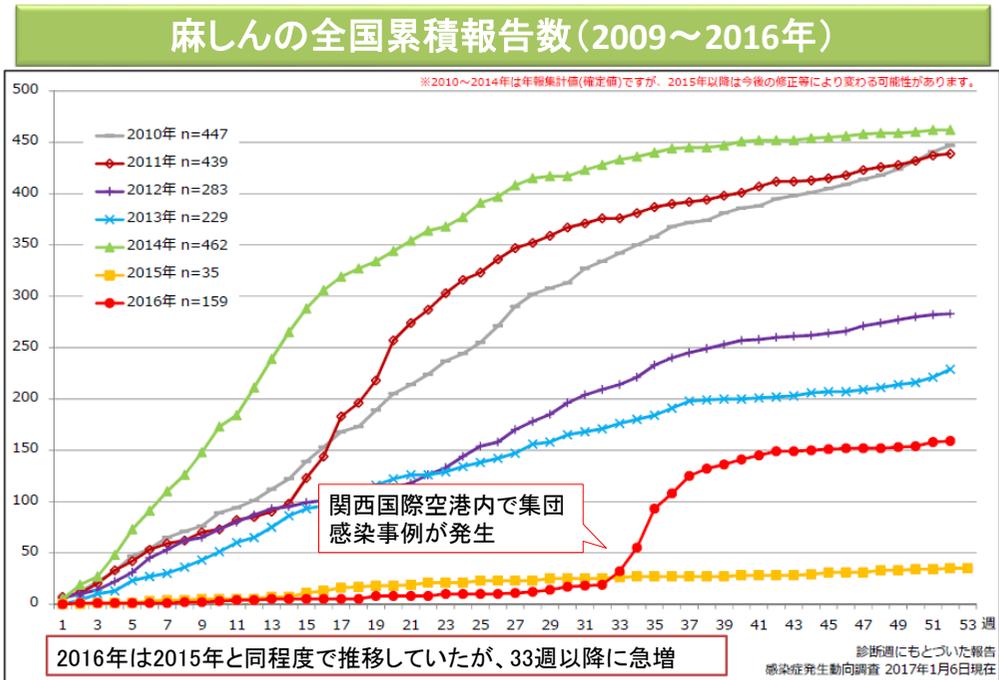


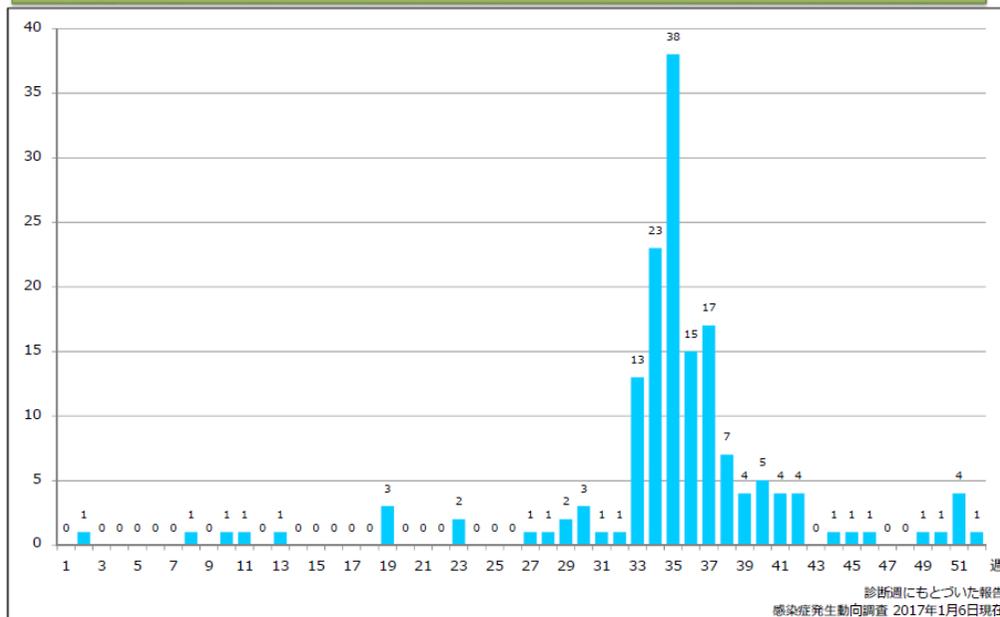
麻しん・風しんの発生動向の把握 及び評価について

平成29年3月14日(火)

青森県健康福祉部保健衛生課



麻しんの全国週別報告数(2016年 n=159)



麻しんに関する厚生労働省通知

○平成28年8月24日 事務連絡「麻しんの広域的発生について(情報提供)」

届出数が増加していることから、医療機関等に対して麻しんの発生を意識した対応をとるよう
に依頼することを都道府県に求めるもの。

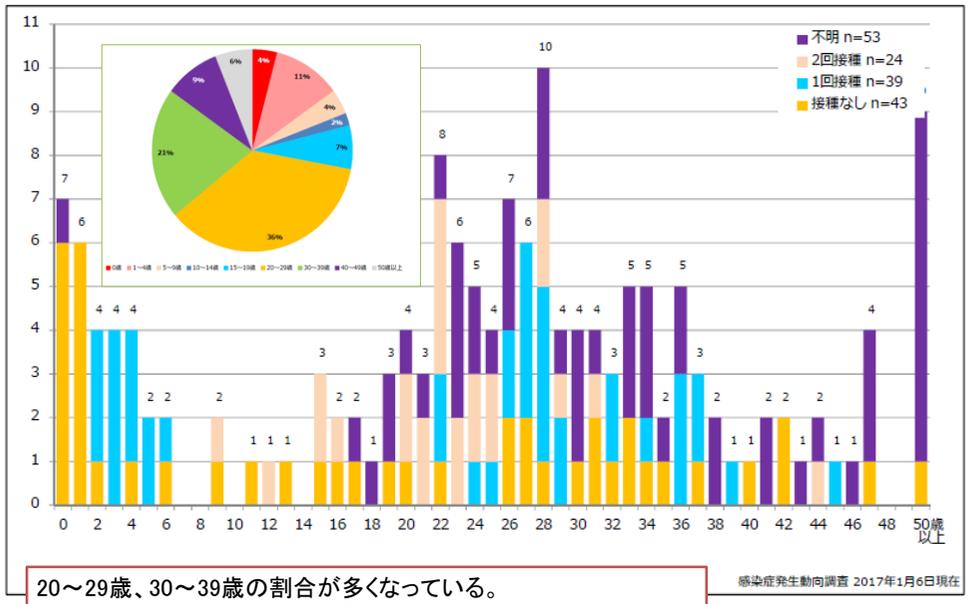
○平成28年9月9日 事務連絡「麻しんの広域的発生に伴う乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチ ンの供給に係る対応について」

麻しんの広域的発生に伴い、ワクチンの使用量が增大することが予想されることから、ワクチ
ンの安定供給のための取組(不必要な発注の抑制、地域間の調整等)を求めるもの。

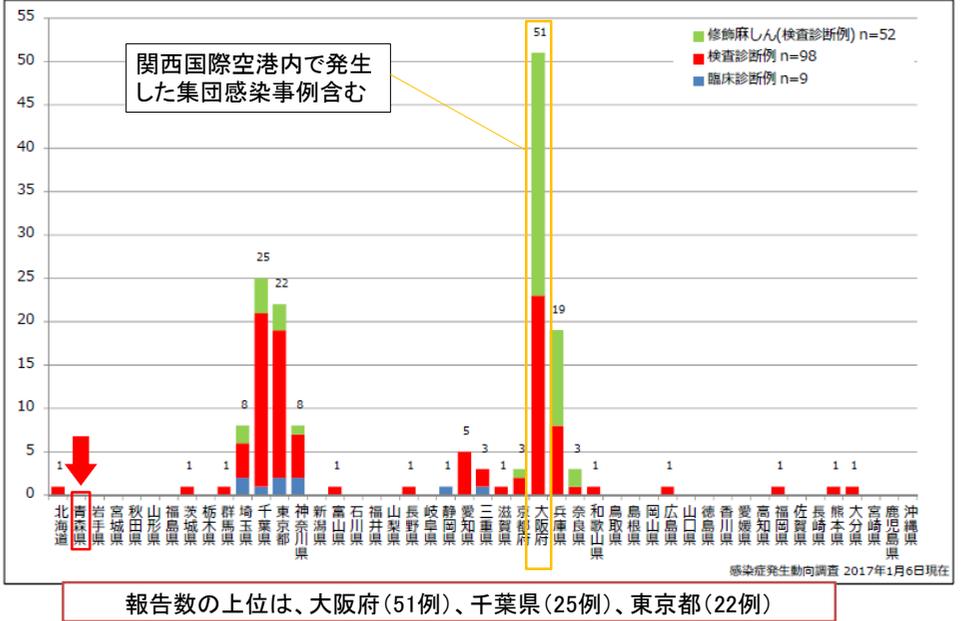
○平成28年9月21日 事務連絡「麻しん患者に関する調査の報告について(依頼)」

麻しん患者の積極的疫学調査の結果について、国立感染症研究所から照会があった場合は
報告するよう求めるもの。

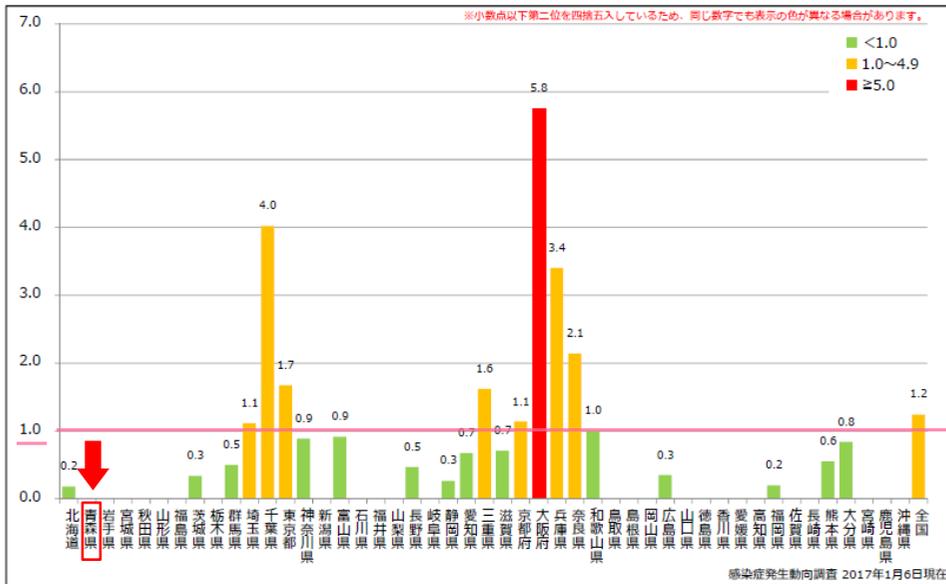
年齢群別麻疹累積報告数割合 2016年 159例



麻疹の都道府県別病型別累積報告数(2016年 n=159)



麻しんの都道府県別人口百万対報告数(2016年)



人口100万人当たり1例未満を達成

関西空港で発生した麻しん集団感染事例

1 探知・調査(大阪府)

平成28年8月17日に関西空港内にある事業所に勤務する20歳代女性が麻疹で入院中との報告を大阪府内の保健所が受理し、調査を実施したところ、麻しんの集団感染が確認された。

2 調査結果(大阪府)

- ・関西空港内事業所勤務者の麻しんの患者は33名
※いずれも20代～30代 男性:8名 女性:25名
- ・上記の麻しん患者との接触により感染した者は、2名
※いずれも40代 男性:2名
- ・8月26日から9月1日までに関西空港を利用した者で6名の麻しん患者が確認されたが、うち2名は、ウイルスの遺伝子型が異なり関連性が否定され、他4名については、今回の集団感染との明確な関連性は判明しなかった。

1 関西空港事業所の勤務者

No	診断週	性別	年代	居住地	発症日	遺伝子型別	予防接種歴
1	33	女	20代	大阪府内	8月9日	H1	不明
2	34	女	20代	大阪府内	8月23日	H1	2回
3	34	男	30代	大阪府内	8月21日	H1	なし
4	34	女	30代	大阪府内	8月21日	H1	不明
5	34	女	20代	大阪府内	8月25日	H1	2回
6	34	女	20代	大阪府内	8月25日	H1	不明
7	34	女	30代	大阪府内	8月23日	H1	2回
8	34	女	20代	大阪府内	8月26日	H1	不明
9	34	男	20代	大阪府内	8月24日	H1	不明
10	34	女	20代	大阪府内	8月23日	H1	不明
11	34	女	20代	大阪府内	8月23日	H1	不明
12	34	女	20代	大阪府内	8月26日	H1	1回
13	34	女	20代	大阪府内	8月24日	H1	2回
14	34	女	30代	大阪府内	8月23日	H1	なし
15	34	男	20代	大阪府内	8月25日	H1	2回
16	35	男	20代	大阪府内	8月22日	H1	不明
17	35	女	20代	大阪府内	8月24日	H1	なし
18	35	女	20代	大阪府内	8月24日	H1	2回
19	35	男	20代	大阪府内	8月19日	H1	2回
20	35	女	20代	大阪府内	8月28日	H1	不明
21	35	女	20代	大阪府内	8月27日	H1	1回
22	35	女	20代	大阪府内	8月28日	H1	不明
23	35	女	20代	大阪府内	8月28日	H1	不明
24	35	女	20代	大阪府内	8月23日	H1	1回
25	35	女	20代	大阪府内	8月25日	H1	2回
26	35	女	30代	大阪府内	8月28日	H1	1回
27	35	女	20代	大阪府内	8月29日	検出不能	2回
28	35	男	20代	大阪府内	8月28日	H1	2回
29	35	女	20代	大阪府内	8月28日	検出不能	なし
30	35	男	20代	大阪府内	8月29日	検出不能	不明
31	35	男	20代	大阪府内	8月29日	H1	2回
32	35	女	20代	大阪府内	8月28日	H1	2回
33	35	女	30代	大阪府内	9月2日	検出不能	1回

2 関西空港事業所勤務者の麻しん(はしか)陽性者との接触者

No	診断週	性別	年代	居住地	発症日	遺伝子型別	予防接種歴
1	35	男	40代	大阪府外	8月29日	H1	2回
2	35	男	40代	大阪府内	8月28日	H1	なし

関西空港で発生した麻しん集団感染事例

3 調査結果(国立感染症研究所)

・2016年第33週(8月15日～8月21日)～第34週(8月22日～28日)に麻しんと診断され、H1の遺伝子型が検出された5例については、自治体による積極的疫学調査により、関西国際空港の利用日が共通していたことが判明し、当該日に関西国際空港で麻しんウイルスに感染した可能性が高いことが示唆された。

症例 ^{注2}	年齢・年齢群	性別	接種歴	発症日 (発熱または発疹)	遺伝子型 ^{注3}	推定感染地域	共通する 関西国際空港利用日
1	20～24 歳	女	不明	8 月 9 日	H1	国内	7 月 31 日
2	15～19 歳	男	無	8 月 9 日	H1	インドネシア または国内	7 月 31 日
3	25～29 歳	男	不明	8 月 10 日	H1	国内	7 月 31 日
4	30～34 歳	男	無	8 月 11 日	H1	韓国または国内	7 月 31 日
5	40 代	男	無	8 月 10 日	H1	国内	7 月 31 日

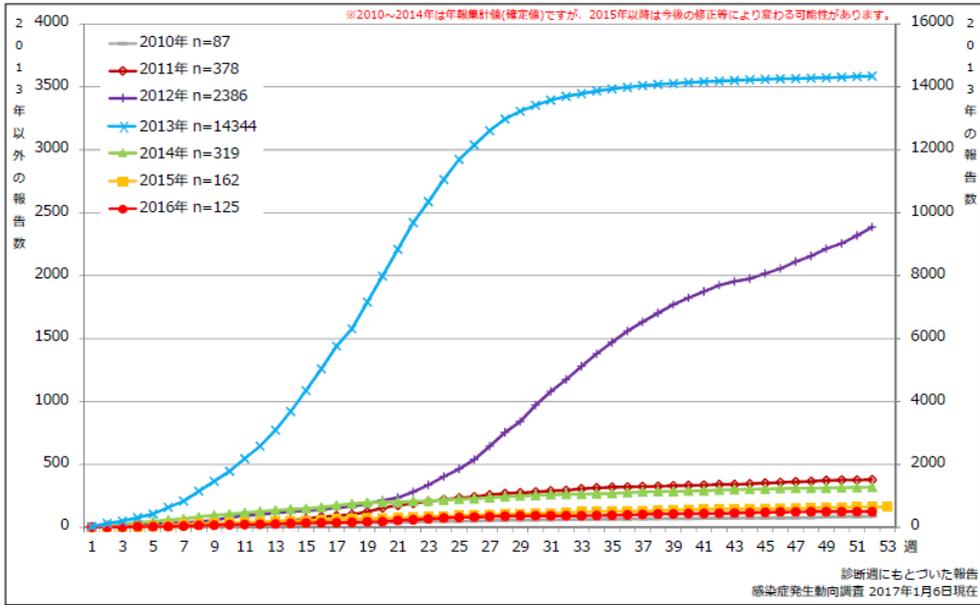
青森県の麻しん疑い事例PCR検査結果(2016年 n=3)

No	検査月	年齢	性別	ワクチン 接種歴	麻しんPCR			麻しんIgM 数値	管轄保健所
					血清	咽頭ぬぐ い液	尿		
1	7月	45歳 4ヶ月	女	不明	(-)	(-)	(-)	実施あり (-)	弘前保健所
2	9月	10歳	男	2回	(-)	(-)	(-)		上十三保健所
3	9月	52歳 1ヶ月	女	無	(-)	(-)	(-)		弘前保健所

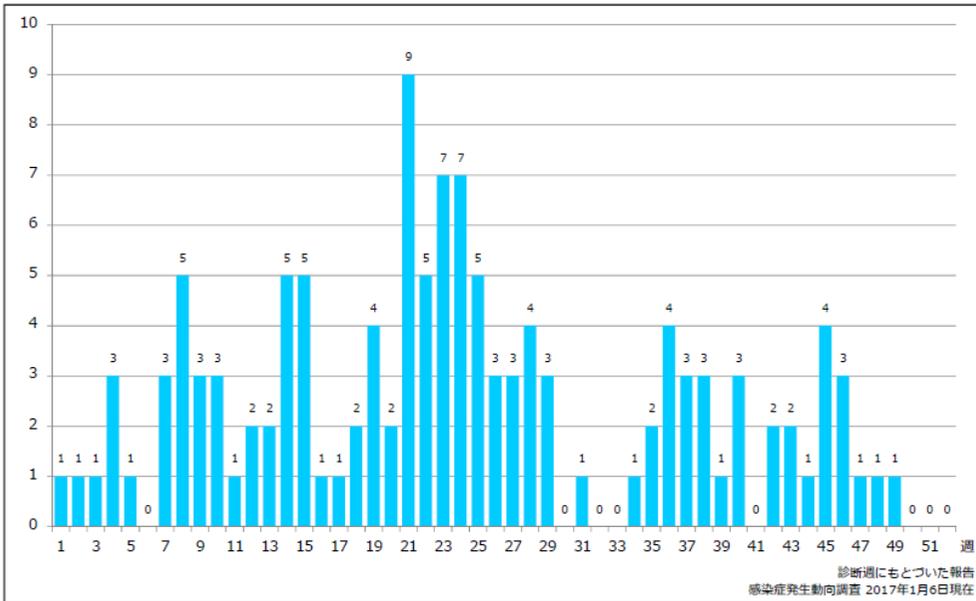
注)届出のために必要な要件

- 1 麻しん(検査診断例)
届出に必要な臨床症状の3つすべてを満たし、かつ、届出に必要な病原体診断のいずれかを満たすもの。
- 2 麻しん(臨床診断例)
届出に必要な臨床症状の3つすべてを満たすもの。
- 3 修飾麻しん(検査診断例)
届出に必要な臨床症状の1つ以上を満たし、かつ、届出に必要な病原体診断のいずれかを満たすもの。
 - 届出に必要な臨床症状
 - ・麻しんに特徴的な発疹
 - ・発熱
 - ・咳嗽、鼻汁、結膜充血などのカタル症状
 - 届出に必要な病原体診断
 - ・分離・同定による病原体の検出:咽頭拭い液、血液、髄液、尿
 - ・病原体の遺伝子の検出:咽頭拭い液、血液、髄液、尿
 - ・抗体の検出(IgM抗体の検出、ペア血清での抗体陽転又は抗体価の有意の上昇):血清

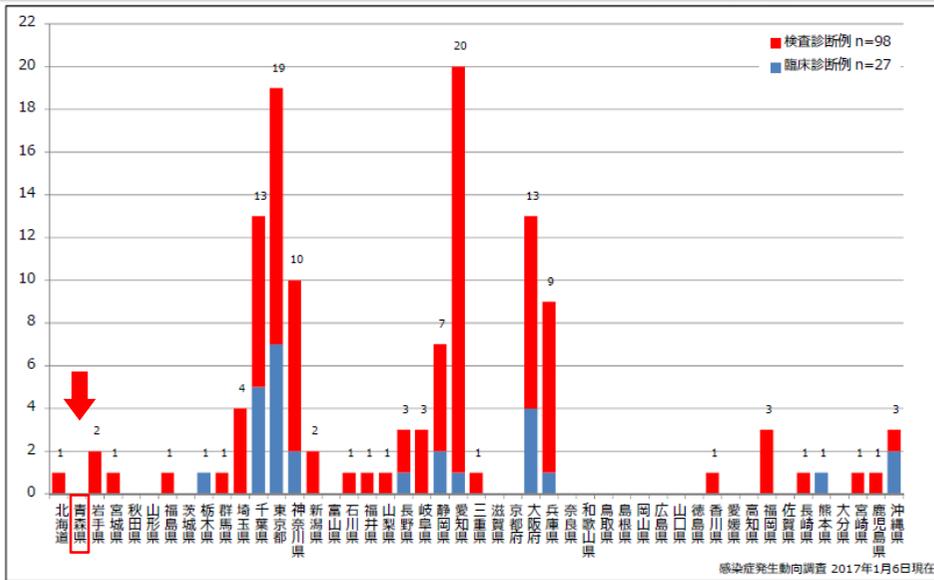
風しんの全国累積報告数(2009~2016年)



風しんの全国週別報告数(2016年 n=125)

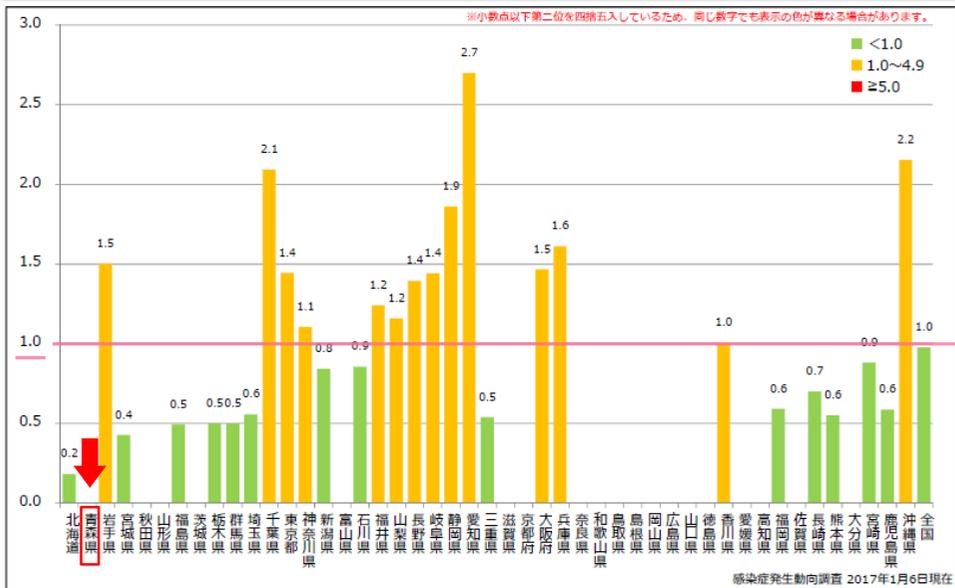


風しんの都道府県別病型別累積報告数(2016年 n=125)



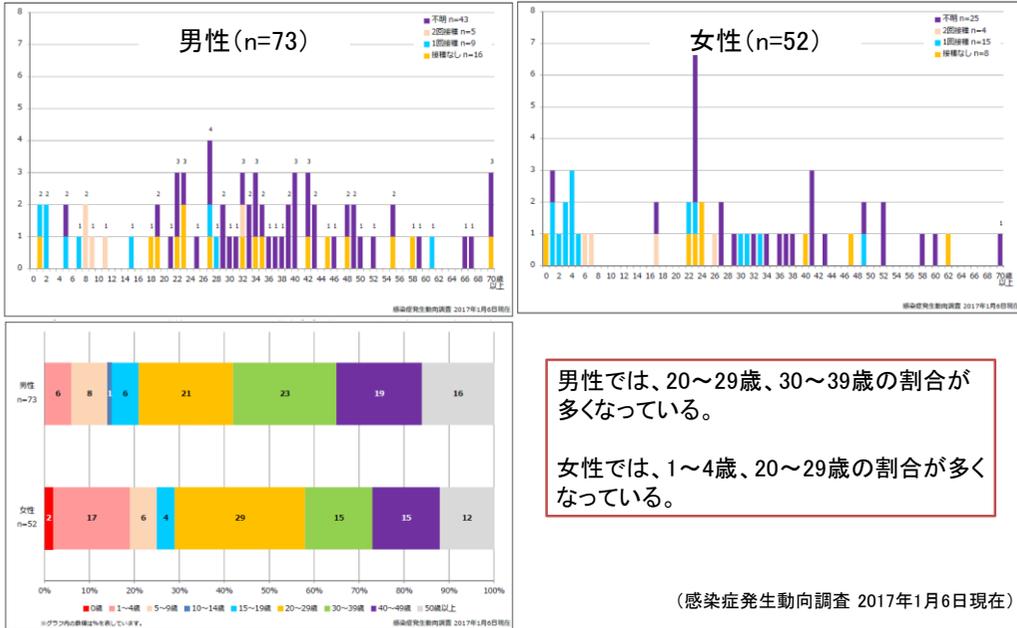
報告数の上位は、愛知県(20例)、東京都(19例)、千葉県(13例)、大阪府(13例)

風しんの都道府県別人口百万対報告数(2016年)



人口100万人当たり1例未満を達成

風しんの年齢群別接種歴別報告数(2016年)



男性では、20～29歳、30～39歳の割合が多くなっている。

女性では、1～4歳、20～29歳の割合が多くなっている。

先天性風しん症候群(CRS)の報告

先天性風しん症候群とは

妊娠20週頃までの女性が感染すると、胎児が感染し、難聴(耳が聞こえにくい)、生まれつきの心臓病、白内障など眼の症状をもった赤ちゃんが生まれることがある。

<全国における先天性風しん症候群報告数の推移>

2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
0	1	4	32	9	0	0

<青森県における先天性風しん症候群報告数の推移>

2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
0	0	0	0	0	0	0

青森県の風しんPCR検査結果(2016年 n=3)

No	検査月	年齢	性別	ワクチン 接種歴	風しんPCR			風しんIgM 数値	管轄保健所
					血清	咽頭ぬぐ い液	尿		
1	2月	31歳	男	なし	(-)			八戸保健所	
2	9月	1歳	男	2回	(-)	(-)	(-) 0.13	弘前保健所	
3	9月	3歳	男	1回	(-)	(-)	(-)	弘前保健所	

注)1 (-):陰性 (±):判定保留 (+):陽性

注)2 風しんIgM抗体検査キット(デンカ生研(株))による判定基準 → 陽性: IgM>1.20 陰性: IgM<0.80
判定保留: 0.80≧IgM≦1.20

注)3 検査診断例:届出に必要な臨床症状の1つ以上を満たし、かつ、次の病原体診断のいずれかを満たすもの
 ・分離・同定による病原体の検出:咽頭拭い液、血液、髄液、尿
 ・検体から直接のPCR法による病原体の遺伝子の検出:咽頭拭い液、血液、髄液、尿
 ・抗体の検出(IgM抗体の検出、ペア血清での抗体陽転又は抗体価の有意の上昇):血清
 臨床診断例:全身性の小紅斑や紅色丘疹、発熱、リンパ節腫脹の3つすべてを満たすもの

風しんIgM抗体が陽性であっても、PCR検査や疫学調査等の結果を踏まえ、総合的に判断する

青森県の麻しん・風しん発生状況 (2010～2016年)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
麻しん	7	0	0	0	0	0	0
風しん	0	0	2	8	0	0	0

麻しんは2011年以降、風しんは2014年以降発生していない。